

# 日本語を味わう ――茨木のり子の詩作を題材として

## □青木裕子（記念朗読）

津田塾大学卒業後、1973年にNHKに入局。元エグゼクティブアナウンサー。2010年に定年退職。朗読をライフワークとして、退職に合わせ長野県軽井沢町に「軽井沢朗読館」を設立、館長。2013年、軽井沢町立図書館館長に就任し、2019年退任。現在、同館名誉館長。



## □松島 邦（現代詩と方言）

山形県出身、早大文学部演劇専修卒。NPO日本朗読文化協会会員。朗読講師、司会。小学校や高齢者施設でボランティア活動。茨木のり子の詩の世界、藤沢周平の作品朗読が多い。洗楓座では、茨木のり子を3年連続で朗読。



## □高谷秀司（現代詩と雅楽）

日本を代表するブルース ギタリスト。渡米後、ラリー・カールトン、デューク・ジョーダンらと共演。人間国宝 山本邦山とのユニット「大吟醸」やデビッド・マシューズとのアルバム「G2 New York Recordings」など幅広く活動。2015年、邦山の意志を継承し、日本古来の美を表現したユニット「How Zan」を結成。



## □ムンロ王子（現代詩を装う）

東京大学法学部卒。タロット占い師のほかIT経営、シャンソン歌手、朗読劇プロデューサーもこなすハイブリッド・パフォーマー。大学卒業後、大手コンピュータ会社に就職。その後IT会社を起業したが、タロット占いのプログラムを作り始めたところその魅力にはまり、カウンセリングが口コミで広まり評判に。週刊誌・TVでも紹介。



## □青柳浩生（コーディネータ）

茨木のり子のファンとして、その詩作を広めるために東京で、朗読と音楽などの会を2019年、2020年、2021年を開催。2022年も11月23日に日比谷図書文化館で実施（予定）。鶴岡市出身。実は「金属疲労のメカニズム」で工学博士の学位取得。地域活性化のメカニズムに応用している。

## □主催団体 EcoFutureCenter@Karuizawa / 一般社団法人 洗楓座

EcoFutureCenter@Karuizawa は、軽井沢長倉に事務所登録し、地域づくりネットワーク長野県協議会会員として、地域快活イベント等と実施。一般社団法人洗楓座（軽井沢支店）とともに、佐藤建吉（青柳浩生）が主宰。佐久地域こども応援プラットフォームの会員でもある。令和4年度長野県地域発元気づくり支援金活用事業で「地域での防災食の普及」を実施。軽井沢まちなか大学院の事業も実施。

《連絡先 kofuza@gmail.com 090-1268-5882》